

モーツァルトと民謡 (2) —— クラヴィーアのための12の変奏曲 ハ長調 K.265 の由来と受容 —— フランス起源のガヴォット・リズムについて

野口秀夫

1. はじめに

鳥代：クラヴィーアのための12の変奏曲 ハ長調 K.265 の主題は「ああ、お母さん、あなたに申しましょう Ah, vous dirai-je, maman」という歌い出しのフランス民謡だと言われていますが、オリジナルの民謡はいつから歌われていて、モーツァルトはどこから引用したのでしょうか。

犬輔：フランス滞在中に市井で聞き知ったメロディを採用したのだとすれば出典の追跡は困難でしょう。

教授：自筆譜の筆跡研究からヴォルフガング・プラートは1781-82の作曲であるとしている^{注1}。アラン・タイソンの透かし研究からも1780-81 製ザルツブルク、ミュンヘンの用紙および1781 製ウィーンの用紙が使われていることが分かっている^{注2}。よってフランス滞在中すなわち1778の作品ではない。

鳥代：モーツァルトは民謡の名前や歌詞を認識していたのでしょうか。変奏曲に表題を書いているればそれが分かるのですが…。

教授：自筆譜(図1-1)には変奏曲の主題が何であるかの記載はない^{注3}。トリチェッラから出版された初版には「様々なエール [メロディ] AIRS VARIÉE」という表題が付けられている^{注4}。



図1-1 クラヴィーアのための12の変奏曲 ハ長調 K.265 自筆譜



図1-2 クラヴィーアのための12の変奏曲 ハ長調 K.265 新全集

犬輔：主題の名称を明記しないでも、フランス民謡であることを認識したであろうモーツァルトはその特徴をどのように処理したのだろうか。

教授：では諸君たち、今回はこの民謡の出典とその特徴、そしてモーツァルト以後の展開についても調べてみてはどうか。

2. 「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」の出典について

犬輔：ジャン＝バティスト・ヴェッケルラン Jean Baptiste Weckerlin (1821-1910) (右図) は「私が『ああ、お母さん、あなたに申しましょう』について引用できる最も古い日付は1740で、その次は1745にコメディ・イタリエンヌ劇場で上演された演劇『コラリーヌの狂気 Les Folies de Coraline』である」と述べていますが、1740の参考資料を特定しておらず、それがテキストなのかメロディなのか、あるいはその両方なのかについて言及していません^{注5}。



鳥代：アンリ・ダヴェンソン Henri Davenson (1904-77) (右図) は出発点が 1740 に遡る匿名の牧歌的恋愛を主題とした田園詩であるといいますが、こちらも発行された場所を特定していません^{注6}。



犬輔：前述のカルロ・アントニオ・ヴェロネーゼ Carlo Antonio Veronese (1702-62) の演劇『コラリーヌの狂気』(1745) については——現在フランス国立図書館に台本が収められているものの^{注7}オンライン閲覧ができないので推定ですが——メロディは載っていないものと思われます。

鳥代：では楽譜が載っている資料を探しましょう…。ありました。ジャン=フランソワ・ブアン Jean-François Bouin (1716頃-81頃) の《巧みな老婦人、またはヴィエルの演奏を学ぶための、短くて非常に簡単で確実な新しい方法 La Vieillesse habile ou Nouvelle Methode courte, très facile, et très sure pour apprendre à jouer de la Vielle...》(1761) です。そのレッスン 44 の次に「組曲 Suite d'Airs」とあり(4分の4拍子、ト長調、ハ長調で練習せよという指示付き?)、1曲目の「優雅な人に Au gracieux」と書かれている曲が該当します(図2)^{注8}(因みに2曲目は「この美しい渓谷で。ミュゼット Dans ce beau Vallon. Musette」、3曲目は「掲示板 La Babillarde」、4曲目は「ミュゼット Musette」)。ト音記号が第1線にあるので曲はドから始まるのですね。それにしても歌詞無しの器楽だからでしょうか、八分音符が多く出て来るのはわたしたちの知っている民謡とされるメロディ(モーツァルトが変奏曲の主題として使った図1のメロディ)より加工が進んでいると言えるでしょう。



図2 ジャン=フランソワ・ブアン《巧みな老婦人》から「組曲」第1曲「優雅な人に」

犬輔：同じジャン=フランソワ・ブアンに《1時間半の娯楽、またはヴァイオリン、フルート、オーボエ、パルドウシュ・ド・ヴィオールやミュゼットによる6つの田舎のディヴェルティスマンを含む多様な美しいエール Les Amusements d'une heure et demy ou les Jolis airs variés contenant six divertissements champêtres pour violons, flûtes, hautbois, pardessus de violles ou musettes》(1762) というのがありました。そこに「第1番。変奏曲を加えて二重奏にした田舎のディヴェルティスマン。ランドルそしてああ！お母さん、あなたに申しませう」という曲があります。そこには「行進曲」「ランドル、二重唱によるアリエッタ」に続き「変奏曲を加えたああ！お母さん、あなたに申しませう」が以下の通り載っています(図3)^{注9}。ト音記号が第2線ゆえイ長調ですから曲はドから始まっています。最後の2小節以外は図2と同じですが、左手が書かれ、第1変奏の後ろにはイ長調でさらに2つの変奏があり、そしてイ短調で3つの変奏が続き、最後に再びイ長調で閉じる構成となっています。



図3 ジャン=フランソワ・ブアン《1時間半の娯楽》から「ああ、お母さん、あなたに申しませう」

鳥代：現存する初期の資料で既に変奏曲になっているということは、オリジナルはそれより前に民謡として歌われ、流行っていたということですね。

犬輔：しかも、民謡としての採譜文書がないとすれば、起源を探ることは不可能だと思います。モーツァルトがどこから引用したのかだけに絞って調査を続けましょう。

教授：なお、ラモーの作曲であるという俗説があるが、これは1811の切手集に収められた切手の説明に「ラモーとカンブラの曲」と書かれていたことによる^{注10}。裏付け資料はない。

鳥代：以上は歌がない例でした。メロディと歌詞が初めて登場するのは「フランス歌謡集、または巻末にメロディが記されている歌集 *Le Chansonnier François, ou Recueil de Chansons, avec les Airs notés à la fin*」(1760-62)に記載の「ロマンス Romance」です(図4)^{注11}。なお“シャンソン”を“歌謡”と訳しました。日本語で言うシャンソンと間違えないためです。

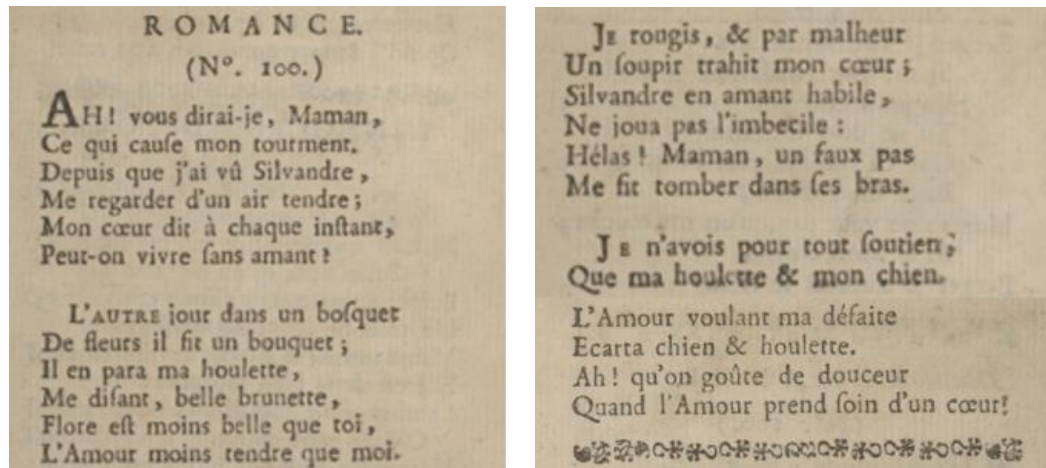


図4-1 《フランス歌謡集》からロマンス(歌詞)

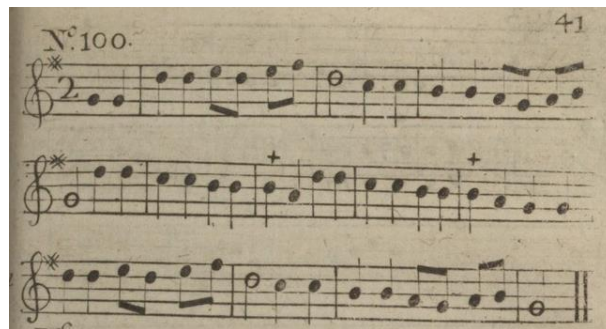


図4-2 《フランス歌謡集》からロマンス(メロディ)

犬輔：表1に歌詞を訳しておきましょう。

表1 《フランス歌謡集》から「ロマンス」

| | |
|--|---|
| <p>Ah! vous dirai-je, maman, Ce qui cause mon tourment. Depuis que j'ai vû Silvandre, Me regarder d'un air tendre; Mon cœur dit à chaque instant, Peut-on vivre sans amant?</p> | <p>ああ！お母さん、あなたに申しましょう、 私の苦しみの原因を。 シルヴァンドルが優しい眼差しで 私を見つめて以来、 私の心は毎瞬こう言っています、 「恋人なしでも生きていけるの？」</p> |
| <p>L'Autre jour, dans un bosquet De fleurs il fit un bouquet; Il en para ma houlette, Me disant, Belle brunette, Flore est moins belle que toi, L'Amour moins tendre que moi.</p> | <p>先日、彼は花畑で 花束を作りました。 彼は私の羊飼杖を飾り、 私にこう言いました、「美しいブルネットよ、 花の神フローラはあなたほど美しくなく、 愛の神は私よりも優しくありません」</p> |
| <p>Je rougis, & par malheur Un soupir trahit mon cœur; Silvandre en amant habile, Ne joua pas l'imbecile: Hélas! Maman, un faux pas Me fit tomber dans ses bras.</p> | <p>私は顔を赤らめ、不覚にも ため息が私の心を裏切りました。 シルヴァンドルは熟練の恋人として、 愚か者を演じませんでした。 ああ！お母さん、私は一歩間違えて 彼の腕の中に落ちてしまいました。</p> |
| <p>Je n'avois pour tout soutien; Que ma houlette & mon chien. L'Amour voulant ma défaite Ecarta chien & houlette. Ah! qu'on goûte de douceur Quand l'Amour prend soin d'un cœur!</p> | <p>私は何にも頼れませんでした、 私の杖や私の犬以外には。 私の敗北を望んでいた愛の神は、 犬と杖を脇に押しのけました。 ああ！愛の神が心を大切にしてくれるとき、 私たちはなんと甘美さを味わうことでしょうか！</p> |

鳥代：このメロディもモーツァルトの変奏曲の主題とは少し異なっています。

犬輔：でもオリジナルに装飾を加えたというのではなく、元々のメロディそのままのようです。

鳥代：別のバージョンがシャルル・ド・ルッセ Charles de Lusse (1723-74) の《ロマンス集 Recueil de romances historiques, tendres et burlesques, tant...》第 2 巻 (1774 ブリュッセル) に「素朴な打ち明け話 La Confiance naïve」というタイトルで印刷されています (図 5) 注 12。

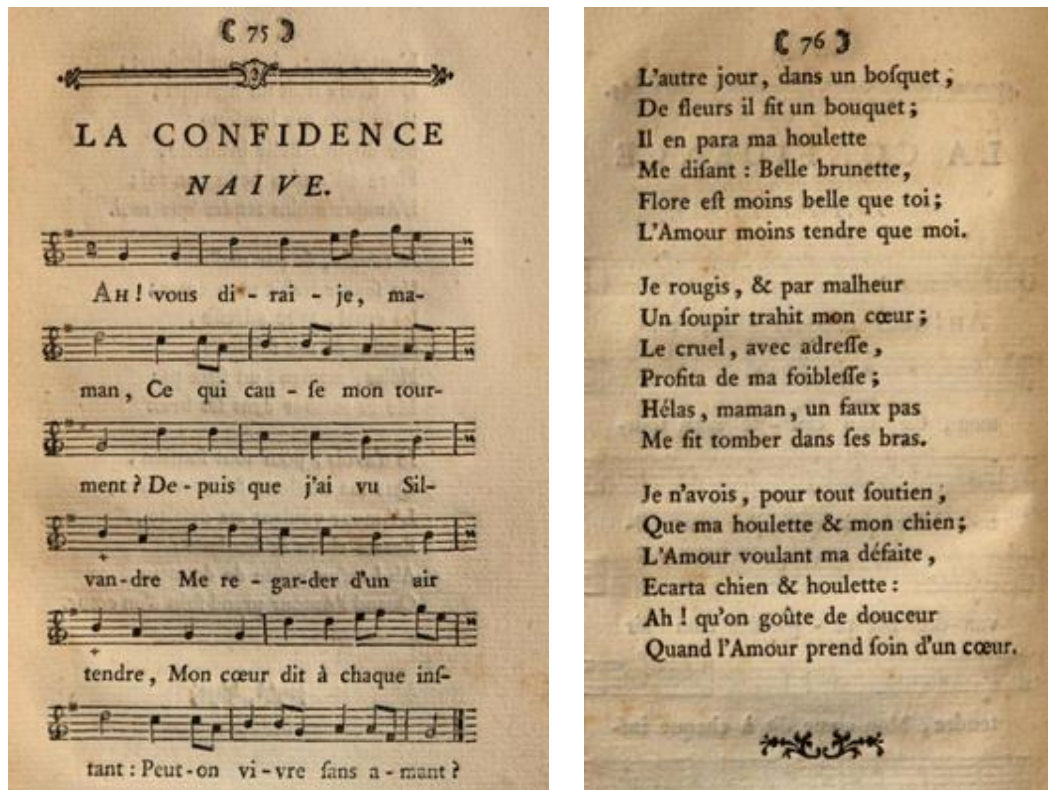


図 5 《ロマンス集》から「素朴な打ち明け話」

犬輔：歌詞は殆ど表 1 と同じですが、第 3 節の第 3-4 行が異なります。表 2 に訳しておきましょう。

表 2 《ロマンス集》から「素朴な打ち明け話」

| | |
|---|---|
| <p>Ah! vous dirai-je, maman, Ce qui cause mon tourment? Depuis que j'ai vu Silvandre Me regarder d'un air tendre, Mon cœur dit à chaque instant: Peut-on vivre sans amant?</p> | <p>ああ！ お母さん、あなたに申しましょうか？ 私の苦しみの原因を。 シルヴァンドルが優しい眼差しで 私を見つめて以来、 私の心は毎瞬こう言っています、 「恋人なしでも生きていけるの？」</p> |
| <p>L'autre jour, dans un bosquet, De fleurs il fit un bouquet; Il en para ma houlette Me disant, Belle brunette, Flore est moins belle que toi; L'Amour moins tendre que moi.</p> | <p>先日、彼は花畑で 花束を作りました。 彼は私の羊飼杖を飾り、 私にこう言いました、「美しいブルネットよ、 花の神フローラはあなたほど美しくなく、 愛の神は私よりも優しくありません」</p> |
| <p>Je rougis, & par malheur Un soupir trahit mon cœur; Le cruel, avec adresse, Profita de ma faiblesse; Hélas, maman, un faux pas Me fit tomber dans ses bras.</p> | <p>私は顔を赤らめ、不覚にも ため息が私の心を裏切りました。 残忍な男は巧みに 私の弱みにつけ込みました。 ああ、お母さん、私は一歩間違えて 彼の腕の中に落ちてしまいました。</p> |
| <p>Je n'avois pour tout soutien, Que ma houlette & mon chien; L'Amour voulant ma défaite, Ecarta chien & houlette: Ah! qu'on goûte de douceur Quand l'Amour prend soin d'un cœur.</p> | <p>私は何にも頼りませんでした、 私の杖や私の犬以外には。 私の敗北を望んでいた愛の神は、 犬と杖を脇に押しのけました。 ああ！ 愛の神が心を大切にしてくれるとき、 私たちはなんと甘美さを味わうことでしょう。</p> |

鳥代：このメロディはさらにモーツァルトの変奏曲の主題から遠のいてしまっています。ところで、表 1 も表 2 も思春期の少女の独唱が相応しい歌詞です。フランス語の民謡 Chanson Populaire はその多くが子供のための童謡である注 13 と言われますが、この曲は年長者向けですね。敢えて児童が斉唱で図 5 を歌うなら、八分音符の部分の少しずれたときに騒々しいザワツキ効果により子供の残酷さ（平然と部外者で居続ける）が生じるかも知れません。

犬輔：アルフレート・アインシュタインは自ら編纂したケッヒェル第 3 版で「私はあるフランス歌曲集（大英図書館 Mus. 362 b. 88）に含まれる 46 番に『シルヴァンドルの恋 Les amours, de Silvandre』という見出しが付いた、1 枚の版刻されたシートとして次のバージョンがあるのを見つけました」と述べており、図 6-1 の楽譜が掲載されています^{注 14}。

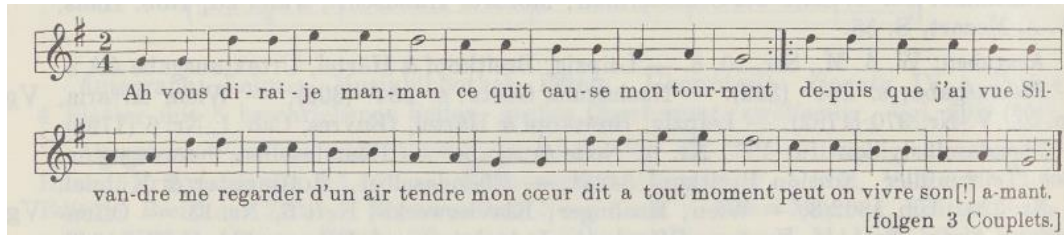


図 6-1 「シルヴァンドルの恋 楽譜」

第 2-4 節の歌詞はケッヒェル第 6 版に記載あります（図 6-2）。

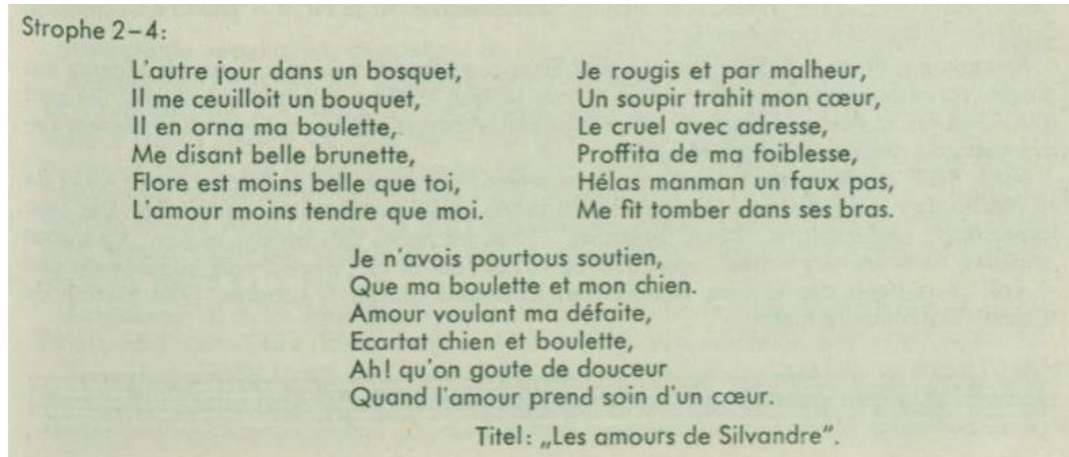


図 6-2 「シルヴァンドルの恋 第 2-4 節の歌詞」

鳥代：歌詞は字句がほんの少し異なるのみで（綴りの間違いが含まれていますが）、表 2 とほとんど同じです。表 3 に訳しておきましょう。

表 3 「シルヴァンドルの恋」

| | |
|---|---|
| Ah, vous dirai-je, maman, Ce quit[?qui] cause mon tourment. Depuis que j'ai vue Silvandre, Me regarder d'un air tendre; Mon cœur dit a tout moment, Peut on vivre son[?sans] amant. | ああ！ お母さん、あなたに申しまして、 私の苦しみの原因を。 シルヴァンドルが優しい眼差しで 私を見つめて以来、 私の心はいつもこう言っています、 「恋人なしでも生きていけるの」 |
| L'autre jour dans un bosquet, Il me ceuilloit un bouquet, Il en orna ma b[?h]oulette, Me disant belle brunette, Flore est moins belle que toi, L'amour moins tendre que moi. | 先日、彼は花畑で 私に花束を持ってきました。 彼は私の羊飼杖を飾り、 私にこう言いました、「美しいブルネットよ、 花の神フローラはあなたほど美しくなく、 愛の神は私よりも優しくありません」 |
| Je rougis et par malheur, Un soupir trahit mon cœur, Le cruel avec adresse, Proffita de ma foiblesse, Hélas manman un faux pas, Me fit tomber dans ses bras. | 私は顔を赤らめ、不覚にも ため息が私の心を裏切りました。 残忍な男は巧みに 私の弱みにつけ込みました。 ああ、お母さん、私は一歩間違えて 彼の腕の中に落ちてしまいました。 |
| Je n'avois pourtous soutien; Que ma b[?h]oulette et mon chien. Amour voulant ma défaite, Ecartat chien et b[?h]oulette. Ah! qu'on goute de douceur Quand l'amour prend soin d'un cœur. | 私は何にも頼りませんでした、 私の杖や私の犬以外には。 私の敗北を望んでいた愛の神は、 犬と杖を脇に押しのけました。 ああ！ 愛の神が心を大切にしてくれるとき、 私たちはなんと甘美さを味わうことなのでしょう。 |

犬輔：アインシュタインが探し出ただけあって、モーツァルトの主題と極めて近いメロディであるため、モーツァルトはこの版から引用したのであると考えられます。

教授：「シルヴァンドルの恋」は 1780 にパリで出版されたという^{注 15}。そうならばモーツァルトが変奏曲を作曲したのが 1781-82 だから、出版後すぐに着手したことになるね。

鳥代：アインシュタインが引用した「シルヴァンドルの恋」の楽譜（図 6-1）に関して疑問があります。フランスやベルギーで出版された図 2～図 5 の楽譜はすべて右図の記号、すなわち 2/2 拍子で書かれています。つまり二分音符が 1 拍で、1 小節を「1 と 2 と」と 2 拍で数えます。ところが図 6-1 は 2/4 拍子で書かれ四分音符が 1 拍で、1 小節を「いちにい」と 2 拍で数えます。



犬輔：その関係でしょうか、図 2～図 5 はアウフタクトで始まっているのに、図 6-1 は 1 拍目から始まっていますよ。

教授：さすが諸君たち二人とも着眼点が鋭い。図 2～図 5 はフランス様式の小節区分であり、アインシュタインの図 6-1 そして何と言ってもモーツァルトの図 1 はイタリア様式の小節区分である^{注16}。では、大英図書館蔵の原物は本当のところいづれなのであろうか。

鳥代：「シルヴァンドルの恋」はパリで出版されたというのですからフランス様式の可能性が高いです。モーツァルトはそれをウィーンの読者が馴染んでいるイタリア様式の小節区分に直して図 1 の主題としたものと思います。

犬輔：一方アインシュタインは大英図書館で見つけた「シルヴァンドルの恋」がフランス様式の小節区分であっても、モーツァルトの小節区分を知っていたがゆえに、それに合わせるように書き換えて図 6-1 のように引用してしまったのではないのでしょうか。

教授：随分大胆な推理だがありうることだ。是非とも大英図書館に行かないといけな^{注17}。

鳥代：ところで、フランス様式の小節区分はなぜ生まれたのですか。

教授：それを理解するには「ガヴォット・リズム」について説明しなくてはならない。

3. ガヴォット・リズムについて

教授：ガヴォットはフランスの民族舞踊として起源を持ち、その名前はこの踊りの発祥地であるドーフィネのペイ・ド・ギャップ地域のカヴォ族に由来している。4/4 拍子または 2/2 拍子で記譜されており、テンポは中程度である。オリジナルのカヴォットの独特のリズムの特徴は、フレーズが小節の中央から始まることである。つまり、4/4 拍子または 2/2 拍子のいずれかで、フレーズは小節の 3 番目の 4 分音符で始まり、図 7 に示すように小節の半分の上拍が作成される^{注18}。



図 7 ガヴォット・リズム

鳥代：単なるアウフタクトではないのですね。

教授：そうだ。したがって弱起の曲と言うカテゴリーには当てはまらない。

犬輔：なぜガヴォットはそのような小節割になっているのでしょうか。

教授：それはガヴォットの踊り方に基づいている。つまり跳躍（上に跳び上がる）のところに小節線が来るのだ。表 4 のようにガヴォットのステップは 2 小節で一単位となる^{注19}。

表 4 ガヴォットの踊り方

| 2/2 拍子 | 4/4 拍子 | ムーヴマン | 跳躍ステップ | ステップ |
|--------|--------|-----------------------|------------------------|-------------------|
| 2 | 3 | まっすぐ立つ | | |
| と | 4 | 軸足でない足を横に出し、軸足の膝を曲げ跳ぶ | コントルタン・ ド・ ガヴォット | パ・ ド・ ガヴォット |
| 小節線 | 小節線 | 跳躍中 | | |
| 1 | 1 | 軸足で着地し、反対の足を前に出す | | |
| と | 2 | 前に出した足に体重をのせて、つま先で立つ | | |
| 2 | 3 | 反対の足を前に出し揃えて立つ | パ・ アサンブレ | |
| と | 4 | 軸足でない足を横に出し、軸足の膝を曲げ跳ぶ | | |
| 小節線 | 小節線 | 跳躍中 | | |
| 1 | 1 | 両足でひざを曲げて着地する | | |
| と | 2 | まっすぐ立つ | | |
| 2 | 3 | まっすぐ立つ | | |
| と | 4 | 軸足でない足を横に出し、軸足の膝を曲げ跳ぶ | | |

鳥代：17 世紀なかばに小節線が一般化したとき、ガヴォットにはフランスの様式とイタリアの様式の分化が起ったといいます。大高誠二の説明を引用します。「すでにジャン＝バティスト・リュリ Jean-Baptiste [de] Lully (1632-87) の《快楽のバレ Ballet des plaisirs》LWV 2 (1655) にフランス様式のガヴォットが見られ、またルイ・クーブラン Louis Couperin (c.1626-1661) もフランス様式のガヴォットを残している。一方イタリア様式ではアウフタクトなしに小節の先頭から始まるのが普通である。代表的なイタリア様式のガヴォットはアルカンジェロ・コレリ Arcangelo Corelli (1653-1713) の作品であるが、コレリはリュリより 20 年若く、小節線が普及してからかなり後に発表された作品である」^{注20}。

犬輔：ジャン＝ミシェル・ギルシャールJean-Michel Guilcher (1914-2017) によるブルターニュのガヴオットの研究によれば、特に使用されるステップの種類、床のパターンとフォーメーション、および音楽の伴奏において、現代の実践においては多様性が見られるとのこと。また一部の地域では、ガヴオットには歌が伴奏され、ソリストがグループまたは別のソリストと交互に演奏され、他の地域では、ガヴオットはヴァイオリン、ドラム、バグパイプ、または一種のショーム（ルネサンスの木管楽器）などの楽器で伴奏したそうです²¹。

鳥代：モーツァルトはこのリズムを知っていたのでしょうか。モーツァルトがガヴオットと明記して作曲した曲がフランス様式かイタリア様式か調べましょう。結果を表5に示します。

表5 モーツァルトのガヴオットの様式

| K. | 曲名 | 作曲年 | 拍子 | アウフタクトの長さ | バスとメロディ |
|-----------|--------------|------|-----|-----------|---------|
| K.188/6 | ディヴェルティメントから | 1773 | ♩ | 小節の半分 | ずれあり |
| K.101/1 | 4つのコントルダンスから | 1776 | ♩ | 小節の半分 | ずれあり |
| K.101/4 | 4つのコントルダンスから | 1776 | ♩ | 小節の半分 | ずれなし |
| K.267/2 | 4つのコントルダンスから | 1777 | ♩ | 小節の半分 | ずれあり |
| K.267/3 | 4つのコントルダンスから | 1777 | ♩ | 小節の半分 | ずれあり |
| K.300 | ガヴオット | 1778 | ♩ | 小節の 1/4 | ずれあり |
| K.299b/12 | レ・プティ・リアンから | 1778 | 2/4 | 小節の半分 | ずれあり |
| K.299b/15 | レ・プティ・リアンから | 1778 | 6/8 | 小節の 1/3 | ずれあり |
| K.299b/18 | レ・プティ・リアンから | 1778 | 2 | 小節の半分 | ずれあり |
| K.367/4 | イドメネーオ舞踊音楽から | 1780 | ♩ | 小節の半分 | ずれあり |

犬輔：バスとメロディのずれとは何ですか。

鳥代：次のような指摘があるから項目に加えたのです。「バロック時代のガヴオットはどれも、まるで小節線を動かしたただけのように感じられる。伴奏も最初の半小節から同時に始まるのが普通であった。ところが新しいガヴオット・リズムでは、メロディだけが半小節先行し、伴奏は小節線の枠組み通りのリズムを持つ」²²。モーツァルトはほとんどのガヴオットで新しいガヴオット・リズムを採用していることが表5から分かります。

犬輔：図2～図5がフランス様式で記譜されていることは分かりましたが、イタリア様式で書き換えるだけなら小節線を移動するだけでいいでしょう²³。でも図1、図6は1小節の四分音符数を四つから二つに変えています。そのような例は他にもあるのでしょうか。

教授：ジャン＝フィリップ・ラモーJean-Philippe Rameau (1683-1764) の組曲イ短調の終曲「ガヴオットと変奏曲」(1727 出版) が挙げられる(図8)²⁴。ガヴオットに例があるのだから、モーツァルトが K.265 の主題をそのように書き換えたのも妥当であると言ってよい。



図8 ラモー組曲イ短調から「ガヴオットと変奏曲」

4. 主にロンド・アリアにおけるガヴオット・リズム

教授：次にガヴオット・リズムを持つロンドについて考察しよう。引用するよ。「このようなガヴオット式の記譜法の流行と同時期に起こったのが、ロンド形式の流行であった。[中略]クープレのチェンバロ曲は、多くが洒落たタイトルを持っていた。そして楽譜には、繰り返し現れるメロディにはロンドーRondeau、その間のエピソードにはクープレ Couplet と書かれている。[中略]やがて曲のタイトルにはただロンドーとだけ書かれるようになった。この結果、偶数拍子のロンドーはガヴオットの記譜法を持つというイメージが形成されたのである(もちろん、ガヴオットとは異なり、ロンドーは偶数拍子であっても必ずしもガヴオットの記譜法を持つとは限らない。洒落たタイトルが流行する前にも、ロンドーというタイトルを持つ曲はあったし、ガヴオット・リズムを持つ場合もあった)」²⁵。

犬輔：クラヴィーア協奏曲 変ロ長調 K.238 (1776) のロンドー・フィナーレはガヴオット・リズムです(図9)²⁶(メロディだけ半小節ずれた新しいガヴオット・リズム)。



図9 クラヴィーア協奏曲 変ロ長調 K.238 からロンドー

鳥代：クラヴィーア・ソナタ 変ロ長調 K.281 (1775) のフィナーレ (図10) も同様です。



図10 クラヴィーア・ソナタ 変ロ長調 K.281 からロンドー

犬輔：オペラ・アリアでは《コシ・ファン・トゥッテ》K.588の「恋人よ、許してください Per pietà, ben mio, perdona」がロンド・アリアです (図11) 注27。



図11 《コシ・ファン・トゥッテ》K.588 から「恋人よ、許してください」

教授：コンサート・アリアの中にもロンド形式のアリアがいくつかあるが、それらがガヴォット・リズムなのかどうか調べて見たまえ。

鳥代：分かりました。表6に示します。

表6 モーツァルトのロンド形式のコンサート・アリアにおけるガヴォット・リズム

| K. | コンサート・アリア (ロンド形式) | 作曲年 | 拍子 | アウフタクト | メロディのずれ |
|-------|-------------------|------|-----|---------------|---------|
| K.255 | 私はお前を残していく | 1776 | ♩ | 半小節 | ずれあり |
| K.374 | 天があなたを私に返して下さる今 | 1781 | 2/4 | 半小節 | ずれあり |
| K.416 | ああ、汝は知らず | 1783 | | ガヴォット・リズムではない | |
| K.420 | どうか、詮索しないで下さい | 1783 | ♩ | 半小節 | ずれあり |
| K.490 | 心配しなくともよいのです | 1786 | | ガヴォット・リズムではない | |
| K.505 | 心配しなくともよいのです | 1786 | | ガヴォット・リズムではない | |
| K.577 | あなたを愛している人の望みどおり | 1789 | ♩ | 半小節 | ずれあり |

犬輔：ロンド形式のコンサート・アリアも半数以上は新しいガヴォット・リズムの原則を守っているんですね。今まで意識したことはなかったので目から鱗です。

教授：ロンド形式ではないが、ガヴォット・リズムのオペラ・アリアもある。数例でいいから調べて見たまえ。

鳥代：《ドン・ジョヴァンニ》K.527の導入でレポレッロが歌う部分 (図12) が貴族の要求の軍的 (そしておそらくひそかにエロティックな) 側面を反映したリズムだとされます注28。



図12 《ドン・ジョヴァンニ》K.527 から「夜も昼も苦勞して」

犬輔：そう言えばツェルリーナのアリアもそうでした (図13)。これは性的服従のパロディ (ドン・ジョヴァンニへの服従の未遂をマゼットへの服従で代替する) で、チェロのオブリガート (小節内でボウイング) がそれにブレーキをかけているという見立てがあります注29。



図13 《ドン・ジョヴァンニ》K.527 から「打って、打って、いといマゼット」

鳥代：《フィガロの結婚》K.492では「もう飛ぶまいぞ」の一節です (図14)。「小姓の羽飾りのある帽子と、ガヴォットの細かく刻み込まれたビートが効果的」といいます注30。



図14 《フィガロの結婚》K.492 から「もう飛ぶまいぞ」

犬輔：《フィガロの結婚》の第 2 幕フィナーレは第 1 ヴァイオリンが踊りのガヴォットを奏するのに合わせて伯爵が歌い出します (図 15)。「まず伯爵は、フィガロに忌まわしい証拠を突きつけ、悪意をかりうじて隠し、素直そうな態度を見せながら、ガヴォットを始める。このセクションの終わり (441 小節以降) までに、共謀者である伯爵夫人、スザンナ、フィガロはガヴォットを自分たちのものにし、ミュゼットの低音で装飾され、壮麗な歌声を盛り込んだ牧歌的な賛歌に変えた。この持続低音は、オルガンの音のように広がり、内気なガヴォットを深く掘り下げる。その素直さはもはや仮面のようには見えない」とのことです³¹。様々な観点からガヴォット・リズムの評価があるものなのですね。

図 15 《フィガロの結婚》K.492 から第 2 幕フィナーレ

5. モーツァルト以後の「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」による作品

鳥代：さて民謡に戻って、このメロディを使ったモーツァルト以後の作品を表 7 にリストアップしましょう。ほとんどがモーツァルトの K.265 に影響されていると言われています。

表 7 モーツァルト以後の「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」による作品

| 作曲家 | 作品 | 年代 | 音源 |
|-----------------------------------|---|-------------------|----|
| ミシェル・コレット (1707-95) | 教本『美しいヴィエル奏者』から「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」による変奏曲 | 1783 | ∞ |
| ヨハン・クリストフ・フリードリヒ・バッハ (1732-95) | 「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」による 18 の変奏曲 ト長調 Wf XII: 2 (BR A 45) | 1785 頃- 1790 頃 | ∞ |
| デーオドル・フォン・シャハト (1748-1823) | クラリネット協奏曲 変ロ長調 第 3 楽章 RISM ID no.: 450010943 | 1785 頃- 1790 頃 | ∞ |
| ジャン＝バティスト・カルドン (1760-1803) | 「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」によるハープのための変奏曲 | 1790 頃 | ∞ |
| ヨーゼフ・ハイドン (1732-1809) | シンフォニー 第 94 番 (《驚愕》) 第 2 楽章 アンダンテ | 1792 | ∞ |
| ムツィオ・クレメンティ (1752-1832) | 『ピアノフォルテ演奏の手引き』Op.42 から レッスン 18 きらきら星 | 1801 出版 | ∞ |
| フェルディナンド・ガルツリ (1770-1841) | ギターのための 3 つの独奏曲 Op.60, No.3 | 1812 頃 | ∞ |
| クリスティアーン・ハインリヒ・リンク (1770-1846) | 「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」に基づくオルガン変奏曲及びフィナーレ Op.90 | 1828 出版 | ∞ |
| フランツ・リスト (1811-86) | アルバム帳「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」S.163b | 1833 | ∞ |
| アドルフ・アダン (1803-56) | 歌劇《トリアドール》から技巧的変奏 | 1849 | ∞ |
| シャルル・ダンクラ (1817-1907) | 「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」による主題と変奏 Op.161 | 1883 出版 | ∞ |
| カミーユ・サン＝サーンス (1835-1921) | 動物の謝肉祭 第 12 曲「化石」 | 1886 | ∞ |
| エルンスト・フォン・ドホナーニ (1877-1960) | 童謡の主題による変奏曲、ユーモアのある人々を楽しませ、他の人を困らせるために Op.25 | 1914 | ∞ |
| エルヴィン・シュルホフ (1894-1942) | 「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」による 10 の変奏とフーガ Op. 16 | 1914 | |
| ハール・マクドナルド (1899-1955) | 子供のシンフォニー 第 1 楽章から第 2 主題 ("Baa, Baa, Black Sheep" 変奏曲) | 1948 | ∞ |
| ハビエル・モンサルバーチェ (1912-2002) | イヴェットのためのソナチネから第 3 楽章 アレグレット | 1962 | ∞ |
| ヴァシュティ・パニヤン (1945-) | アルバム『ジャスト・アナザー・ダイヤモンド・デイ』から "Lily Pond" | 1970 | ∞ |
| ジョン・コリアーノ (1938-) | マンハイム・ロケット | 2000 | ∞ |
| ヴァンサン・マナック (1973-) | 「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」 | 2015 CD | ∞ |
| フレデリック・ブラン (1967-) | 「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」による即興 | 2019 演奏 | ∞ |
| 木村 裕 (ゆたか) (1985-) | 4 手連弾のためのきらきら星の主題による変奏曲 | 2020 初演 | ∞ |

6. 「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」を参考にした作品あるいは空似の作品？

鳥代：「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」は各国の言語に翻訳されたり、別の歌詞を付けて歌われたりしています。表8に示します。

表8 「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」の各国語替え歌

| 言語 | 表題 | 歌い出し | 作詞者 | 年 |
|------|---------------------------------|--|------------------------------|----------|
| 英語 | The Star 星 | Twinkle, Twinkle, Little Star きらきら、きらきら、小さな星 | Jane Taylor | 1806 出版 |
| 英語 | The ABC Song ABC の歌 | A, B, C, D, E, F, G... エービーシーディーイーエフジー... | 不詳 | 1835 著作権 |
| 英語 | Baa, baa, black sheep めえめえ黒羊 | Baa, baa, black sheep めえめえ黒羊 | 不詳 (詩のみ 1744 初出) | 1879 出版 |
| ドイツ語 | Weihnachtsmann サンタクロース | Morgen kommt der Weihnachtsmann 明日はサンタクロースが来る | Hoffmann von Fallersleben | 1881 以前 |
| 日本語 | みよみよ小兒 (こども) | みよみよこども うづまくみづを。 | 不詳 | 1887 出版 |

犬輔：日本語は年代順に「みよみよ小兒」(1887、図16-1)^{注32}、「うづまく水」(1898、同一歌詞)^{注33}、「かたつぶり」(わが家一つ 負ひゆく蟲よ) (1905、図16-2)^{注34}があり、敢えて Twinkle, Twinkle, Little Star の翻訳に限れば、楽譜なしで村井元道の訳「小さき星が輝く」(小さき星が輝くよ輝くよ 如何に私は汝が何であるかを驚くよ 空に於て金剛石の如く 左様に高く世界の上に昇れ) (1882)^{注35}がありますが、楽譜付きでは近藤逸五郎 (朔風) 訳の「煌々光れ 小さき星よ」(1914、伴奏翻譜は小松耕輔監修)^{注36}が最初となります。



図16-1 「みよみよ小兒」



図16-2 「かたつぶり」

教授：また「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」に似た作品もある。空似も含まれるだろうから、むやみに関係性を詮索することはやめておこう。

鳥代：『バーデン・プファルツ州の民謡』集の中に「村の校長先生 Dorfschulmeister」関連の曲として「こどもたち Die Kinder」という曲があり(図17左)^{注37}、ABCの歌を踏襲したものと考えられます。また同関連の曲に「校長先生 Der Schulmeister」という曲もあり(図17右)^{注38}、やはり同音反復が似ています。



図17 バーデン・プファルツ州の民謡から 左図「こどもたち」、右図「校長先生」

犬輔：ホフマン・フォン・ファッラーズレーベン Hoffmann von Fallersleben 作詞／ルイーゼ・ライヒャルト Luise Reichardt 作曲『春の訪れ Frühlings Ankunft』(1847 以前) という民謡は「緑のきらめきが再び牧草地と野原に響きわたる」と歌われます(図 18) 注 39。前半のリズムが似ています。

鳥代：ファッラーズレーベン作詞にはもう一つの「春の訪れ Frühlings Ankunft」(1835 作詩、1844 作曲)があり、「すべての鳥がすでにここにいます」と歌います(図 19) 注 40。日本では小学唱歌「霞か雲か」(1883)として発表されました。作詞は加部巖夫(いずお)で、歌い出しは「かすみか雲か はた雪か」です。その後 1892 には幼稚園唱歌「小鳥の歌」(作詞：大和田建樹(たけき))として「小鳥の歌は いともたのし」の歌い出しで出版されました。現代版の歌詞は、1947 発刊の音楽教科書に掲載されたもので、作詞は勝承夫(かつ よしお)。歌い出しは「かすみか雲か ほのぼのと」です注 41。楽譜の 2 段目が似ていると言える程度です。

犬輔：日本の曲で非常によく似ていると言われるのは、高野辰之作詞、岡野貞一作曲の「日の丸の旗」(歌い出し「白地に赤く、日の丸染めて」)です。『尋常小学唱歌(一)』(1911)に載り(図 20) 注 42、口語体に修正されたものが『ウタノエホン(上)』(1941)に収録されました。2/4 拍子で、四分音符の同音反復からなっている特徴が K.265 の主題と一致しています。

1. Frühlings Ankunft.



図 18 『100 曲の学校歌』(1848) より
「春の訪れ」(緑のきらめきが)

12. Frühlings Ankunft.

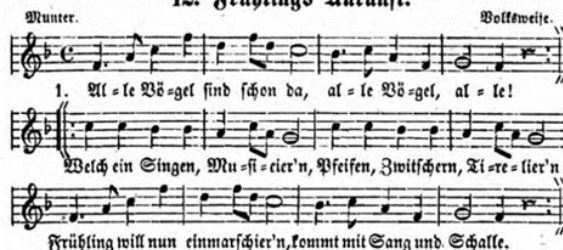


図 19 『40 曲の童謡』(1847) より
「春の訪れ」(すべての鳥が)

♩=108

日の丸の旗



図 20 尋常小学唱歌「日の丸の旗」

鳥代：第 8 変奏に似ていると言われる注 43 のが野口雨情作詞、本居長世作曲による「赤い靴」(1922)です(図 21) 注 44。ハ短調であり、八分音符でドレミ♭ファと上行音階を奏し、ソを伸ばしたあと、後半では二つずつ同音の四分音符が音程を下げていきます(図 22)。



図 21 童謡「赤い靴」

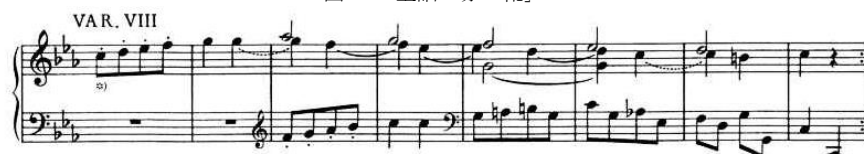


図 22 クラヴィーアのための 12 の変奏曲 ハ長調 K.265 第 8 変奏から

教授：この民謡の主題は自然発生的に生まれ、歌いやすいものであって、変奏してもその特徴が残っているということであろう。

7. まとめ

鳥代：結論をまとめましょう。変奏曲 K.265 の主題はフランス民謡であり、パリで出版された「シルヴァンドルの恋」(1780頃?)から引用されたものと考えられます。

犬輔：フランス民謡であることの特徴の一つはガヴォット・リズムでした(オリジナルの作曲者がラモーだという誤解がガヴォットからの類推だったとすれば出来すぎですが)。フランス様式の記譜にその特徴が表れていましたが、モーツァルトはイタリア様式で記譜することにしてその縛りを解放しました。後々K.265を手本にする曲がたくさん作曲されることになったのは、フランス様式から解放されていたことも一因だったでしょう。

鳥代：一方、ガヴォット・リズムの適用に関して、ガヴォットにおいてはバスとメロディをずらす新しい方式が生まれ、ロンド・アリアにも広く使われるようになりました。モーツァルトはガヴォットやロンド・アリアにこれら新しい方式を積極的に採用していきました。

教授：今回はクラヴィーアのための12の変奏曲 ハ長調 K.265 の由来と受容を中心に調査を進めてきた。曲の分析についてはまたの機会を待つこととしよう。

注1: Plath, Wolfgang (1976/77). Beiträge zur Mozart Autographie II: Schriftchronologie 1770–1780, in Mozart Jahrbuch, 1976/1977

注2: Tyson, Alan (1992). Wasserzeichen-Katalog, NMA Supplement X/33/2, Kassel: Bärenreiter, 1992

注3: 12 Variations On "ah Vous Dirai-je Maman" ("twinkle, Twinkle Little Star") K265 (300e), Henle Facsimile ∞

注4: Fischer, Kurt von (1962). Variationen für Klavier, NMA IX/26, Kritischer Bericht, Kassel: Bärenreiter, 1962

注5: Wikipedia: Ah! vous dirai-je, maman ∞

注6: 前掲 Wikipedia: Ah! vous dirai-je, maman

注7: Les Folies de Coraline, comédie nouvelle italienne en cinq actes... ∞

注8: La Vielleuse habile ou nouvelle méthode courte, très facile et très sûre pour apprendre à jouer de la vielle.... Gravée par Joseph Renou. Oeuvre IIIe ∞

注9: Les Amusements d'une heure et demy ou les Jolis airs variés contenant six divertissements champêtres pour violons, flûtes, hautbois, pardessus de violles ou musettes... Oeuvres 4e. Gravé par Joseph Renou... ∞

注10: Martine David et Anne-Marie Delrieu (préf. Claude Roy), Refrains d'enfance: Histoire de 60 chansons populaires, Paris, Éditions Herscher, 1988. Wikipedia: Ah! vous dirai-je, maman を参照 ∞

注11: Le chansonnier françois ou Recueil de chansons, ariettes, vaudevilles & autres couplets choisis. Tome 3 / . Avec les airs notés à la fin de chaque recueil から 歌詞 ∞、メロディ ∞

注12: Recueil de Romances. Tome Second. 1774 ∞

注13: 引地博信: Chanson Populaire、フランス民謡の世界: 歌詞の和訳と解説 ∞

注14: Ludwig Ritter von Köchel: Chronologisch-thematisches Verzeichniss sämtlicher Tonwerke Wolfgang Amade Mozart's. Nebst Angabe der verloren gegangenen, angefangenen, übertragenen, zweifelhaften und unterschobenen Compositionen desselben. Breitkopf & Härtel, 3. Auflage, Ann Arbor 1947, Hrsg. von Alfred Einstein. ∞

注15: British Library B.362.b.(88.)の書誌情報: Title: Ah! vous dirai-je maman. Les Amours de Silvandre. [Song.], Publisher: Paris, Creation Date: 1780? ∞

注16: 大高誠二 (2023). 「ガヴォット・リズム」とは何か?—ガヴォットと古典派ロンドのリズム的發展関係— 日本音楽学会第74回全国大会 2023年11月4-5日

注17: 前掲 British Library B.362.b.(88.) のオンラインでの閲覧はできない。 ∞

注18: Classic Cat - the free classical catalog, dictionary, Gavotte ∞

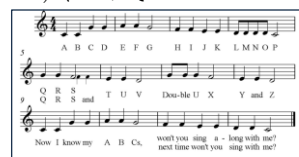
注19: 浜中康子 (2016). バロック・ダンスの基本的なテクニック ∞

注20: 前掲大高誠二 (2023)

注21: 前掲 Classic Cat ∞

注22: 大高誠二 (2024). 古典派のロンドにしばしば見られるリズム(ガヴォット・リズム)について ∞

注23: フランス様式の記譜から小節線を移動するだけでイタリア様式に書き換えた例の一つが「ABCの歌」(右図)である。モーツァルトがこの解決策を採らなかったのはズルツァーの「作品の終止音は全時間の流れの中での重要音でなければならない。それゆえ終止音は、完全終止にすべき時には、単純な拍節法においてその小節の第一音に与えられそしてその小節全体に継続する」(Artikel Takt, in: Sulzer, Johann Georg: Allgemeine Theorie der Schönen Künste. Bd. 2. Leipzig, 1775. p.744 ∞) という考え方を優先させたためではないだろうか。



注24: 前掲大高誠二 (2023)

注25: 前掲大高誠二 (2024) ∞

注26: 前掲大高誠二 (2024) ∞

注27: 前掲大高誠二 (2024) ∞

注28: Allanbrook, WYE J. (1992). Dance rhythms in Mozart's arias: The gavotte in Mozart's arias, in: Early Music, Volume XX, Issue 1, February 1992 ∞

注29: 前掲 Allanbrook, WYE J. (1992) ∞

注30: 前掲 Allanbrook, WYE J. (1992) ∞

注31: 前掲 Allanbrook, WYE J. (1992) ∞

注32: 真鍋定造編『幼稚唱歌集』普通社 1887.3. 国立国会図書館デジタルコレクション ∞

注33: 教育音楽講習會編『新編教育唱歌集 第一集』三木書店 1898. 国立国会図書館次世代デジタルライブラリー ∞

注34: 教育音楽講習會編『新編教育唱歌集 第一集』東京開成館 1905 (修正五版). 近代教科書デジタルアーカイブ ∞

注35: 村井元道 (1882). 『ウィルソン氏第二リドル直訳』三浦源助出版、明 15.4. p.37. 国立国会図書館デジタルコレクション ∞

注36: 小西潤子 (2010). 大正期「歌」資料楽譜目録、大阪音楽大学音楽博物館年報 第25巻、p.66 ∞

注37: Volkslieder aus der badischen Pfalz gesammelt und mit Unterstützung des Grossherzoglich badischen Ministeriums der Justiz, des Kultus, und Unterrichts, M. Niemeyer, 1902, p.247–248 ∞

注38: 同上 p.248–249 ∞

注39: Vilkslieder Archiv: Grüner Schimmer spielet wieder, Frühlings Ankunft ∞

注40: Vilkslieder Archiv: Alle Vögel sind schon da ∞

注41: 世界の民謡・童謡 ∞

注42: 堀内敬三・井上武士編『日本唱歌集』岩波文庫 1958

注43: 世界の民謡・童謡 ∞

注44: 池田小百合 (2008). なつとく童謡・唱歌「赤い靴」 ∞

(作成: 2024年4月25日、改訂: 2024年5月19日)

後日の談話室 —— 「きらきら星変奏曲」という通称が使われるようになった経緯

犬輔：K.265を日本では「きらきら星（ぼし）変奏曲」と呼ぶことがあります。この通称はどのような経緯で生まれたのでしょうか。

鳥代：Twinkle, twinkle, little starの訳詩から採られたものと思われます。日本でこの曲がどのような訳詞で普及していったのかを調べてみましょう。

教授：それには国会図書館デジタルライブラリーを調査してみることを勧める。

犬輔：はい、徹底的に調べてみましょう…。

鳥代：結果を表9に示します。表中でTwinkle...とあるのはTwinkle, twinkle, little starの略、また取り消し線があるのはTwinkle...の曲に直接関係していないものです。なお、各資料ごとのリンクは記載しませんので必要であれば各位にて検索ください。

表9 Twinkle, twinkle, little starの訳詩関連の調査結果^{注45}

| 出版 | 出典 | 記述 |
|-------------|--|---|
| 1859 安政6 | 中浜万次郎『英米対話捷徑』 | 表題：A sing [sic] of the abc 歌詞：abc...x. I cannot say that abc. 解説：彼國童兒ニ教エルニ如此節ヲナシテ是ヲ復誦ナサシム。 |
| 1882 明15 | 村井元道訳『ウィルソン氏第二リドル直訳』三浦源助出版 | 表題：第十四章 小サキ星ガ輝ク 詩行：小サキ星ガ輝クヨ輝クヨ 如何ニ私ハ汝ガ何デアルカラ驚クヨ |
| 1885 明18 | 西山義行訳『ウィルソン氏第二リドル独案内第6 (Lesson12) -7編 改正増補』三省堂 | 原表題：LESSON XIV. Twinkle, little star 訳表題：爛キタル 小サキ 星 原詩行：Twinkle, twinkle, little star 訳詩行：爛キタル 爛キタル 小サキ 星 |
| 1887 明20 | 真鍋定造編『幼稚唱歌集』普通社 | 五線譜：ト長調、2拍子 表題：みよみよ小兒 歌詞：みよみよこども うづまくみづを |
| 1898 明31 | 教育音楽講習會編『新編教育唱歌集 第一集』三木書店 | 数字譜：ヘ長調、2拍子 表題：うづまく水 歌詞：みよみよこども うづまくみづを |
| 1901 明34 | 高浜虚子、正岡子規編『寸紅集』ほととぎす発行所 | 某女學校の卒業式の時、ぱっちりとした瞳の涼い可愛らしい児が Twinkle...と透き通るような美しい聲でリーダー〔読本〕の星と云ふ詩を独吟した時の無邪氣な姿が五年立った今でもまだ忘れられない、その小女はもう子を抱いて居る年であらうに。(ふみを) |
| 1905 明38 | 教育音楽講習會編『新編教育唱歌集 第一集』(修正五版) 東京開成館 | 五線譜：ヘ長調、2拍子 表題：かたつぶり 歌詞：わが家 [いへ] 一つ 負ひゆく 蟲よ |
| 1907 明40 | 中村枯林著『寄宿舎日記』晴光館 | 『ナショナル』二の巻にある Twinkle...の歌を面白く巧に歌った。 表題：Twinkle... 歌詞：Twinkle... |
| 1913 大2 | 大伴佐久雄編『ニュースクール英語読本註釈』集文館 | LESSON37. Twinkle 星ノキラキラセル形容、twinkle little star 星。ピカピカピカト小サキ星ヨ |
| 1914 大3 | 共益商社書店編『英語唱歌教科書 卷一』共益商社書店 | 五線譜：ヘ長調、4拍子 表題：Twinkle... 歌詞：煌々 [きらきら] 光れ / 小さき星よ (近藤逸五郎=朔風訳詩) |
| 1922 大11 | 北原白秋著『きらきら星 (白秋童謡 / 北原白秋著, 6)』アルス | 書名：きらきら星 (ぼし) 所収作品：星の歌、七つ坊主、山道とつぶり、影ぼうし、真夜中、弟の誕生、足音 |
| 1922 大11 | 渋谷新平著『暗誦の英文英詩：訳註並発音アクセント附』誠文堂 | 目次：Twinkle... (お星さま) 表題：Twinkle... / ピーカ、ピーカ、お星さま 詩行：Twinkle... / ピーカ、ピーカ、お星さま あなたは一體なんぞでせう |
| 1923 大12 | 岡田明達著『ダイヤモンド・リーダーズ：教授用参考書 no.1』金港堂書籍 | LESSON XIII 表題：Twinkle... 原詩行：Twinkle... 訳詩行：ピカピカ (光る) 小さい星よ。あなたは一體何ものでしょう。 |
| 1932 昭7 | 真篠俊雄 等編『オルガン名曲全集 第1巻 (世界名曲体系; 第3輯)』京文社 | 五線譜：ヘ長調、2拍子、歌詞無し 表題：きらきら星よ [由木康 (ゆうきこう) 訳詞] / Twinkle, Little Star |
| 1933 昭8 | 雑誌『自然科学と博物館 4 (8) (44)』国立科学博物館 | 記述：青くすき通った空には、星が無心に輝き、いつとはなしに子供の頃ならった Twinkle...の詩が思ひ浮かび上がってくる。 |
| 1936 昭11 | 鳥居忠五郎『日曜学校讃美歌の教へ方 (日曜学校パンフレット; 5)』日本基督教会日曜学校局 | 三部分形式 日讃三十九番「花と星」 四十八番「キラキラ星よ」[由木康訳詞] 四十九番「なにをかさげん」 これらは何れも三部分形式である。 |

| 出版 | 出典 | 記述 |
|--------------|--|---|
| 1936 昭 11 | 若狭万次郎編著『新女子音楽教科書教授用書 第1編』共益商社書店 | 五線譜：へ長調、2拍子、モーツァルト 表題：Twinkle... (キラキラ光ってゐる小さな星よ) [逐語訳] 歌詞：Twinkle... |
| 1936 昭 11 | 日本組合基督教教育会教育部編『父なる神と子供の世界 (宗教々育叢書、標準日曜学校学課教案;幼稚科第1年)』福音社 | 表題：歌「キラキラ星よ」日讃四八 歌詞：キラキラ星よ／不思議な星よ [由木康訳詞] |
| 1937 昭 12 | 小松耕輔著『モーツァルト (楽聖伝記叢書;3)』共益商社書店 | 「ああ！ 貴女をママと呼びませう…」による十二のヴァリエーションはより音楽的である。 |
| 1944 昭 19 | 早稲田大学童話会編『童苑 4 (学徒出陣号)』早稲田大学童話会所収の今西祐行「天窓に光る星」——この一篇を大久保日曜学校の小さき友に贈る—— | 星がみんな宏一の部屋に入ってきました。ふと見ると、それは一人の女の人と、澤山の可愛らしい子供でした。そして頭にはキラキラ星の冠が光ってゐました。やがて女の人の合圖で歌を歌ひ出しました。 キラキラ星よ／ふしぎなほしよ／おそらのうへの眞珠のやうな／キラキラ星よ／ふしぎなほしよ [由木康訳詞] 何時の間にか女の人はオルガンを弾いてゐました。そして澤山の子供たちが、大きな部屋で歌ってゐました。 「あれっこれは。あの、アーメンぢゃないか」 宏一はびっくりしました。 |
| 1948 昭 23 | 市河三喜主幹『新英語教育講座 第2巻』研究社 | Twinkle... 「きらきらきらきら小さな星」[逐語訳] |
| 1948 昭 23 | 鈴木鎮一『才能教育』才能教育研究会 | 曲目合奏 キラキラ星變奏曲 [鈴木鎮一作曲] 山田和子 (四歳)、伊藤吉春 (四歳) |
| 1948 昭 23 | 石塚友二『青野』海口書店 | 「神は愛なり？」 「神は愛なり。」 妻がびっくりして字をなぞるやうないひ方をしながら、子供の方を向くと、子供は知らん顔のまま、今度は明らかに節をつけて歌ひ出した。 「お空のうへの／眞珠のやうな／キラキラ星よ／不思議な星よ」[由木康訳詞] |
| 1949 昭 24 | 上条茂、田中茂樹共著『小学校における才能教育の実際：1ヶ年の実験報告』才能教育研究会 | 最初課外として個人的な指導をし、キラキラ星 [鈴木鎮一作曲の主題部分か?] が一応演奏できるようになってから、音楽の授業としてとり入れ、最初11人に演奏させて、見学し、後にそのヴァイオリンを各自かりて、キラキラ星の練習を全児童に実施しました。 |
| 1949 昭 24 | 東京高師附中新教育研究会編『新制中学研究叢書 第4巻』教育振興会 | また教室で ABC Song とか Twinkle... などの歌を歌わせる場合、生徒の興味が高まれば高まるほど隣の組に迷惑をかけるので、普通教室から離れたものができれば、これに越したことはない。 |
| 1949 昭 24 | 愛知学芸大学愛知第一師範学校春日井附属小学校編『生活学習の計画』清弘出版社 | 第五學年9月 「きらきら星よ」[由木康訳詞]の變奏曲をつくる |
| 1950 昭 25 | 広島大学附属小学校学校教育研究会編『学校教育 (396)』広島大学附属小学校学校教育研究会 | その外、同じ旋律で三ヶ学年に涉って採用されているものには、「夕やけこやけ」「シューベルトの子守歌」「ゆうべのかね」「子ぎつね」(何れも主として文部省教科書の題名を採つてゐるが、題名は教科書によって異なる) 等があり、 フランス民謡の「キラキラ星」 [通称] (原名 Twinkle...) などに至っては、実に四ヶ学年の開きがあるのである。 |
| 1950 昭 25 | 研究社新英語教育講座編集部編『新英語教育講座 第11巻』研究社出版 | 初学年向き Twinkle... 「きらきら小星」[逐語訳] |
| 1951 昭 26 | 井上武士、小出浩平共編『唱歌集：音楽单元学習資料』音楽之友社 | 表五線譜：へ長調。2拍子 表題：お星さま (小出浩平訳詞) 歌詞：きらきらおほし／あなたはきれい |
| 1952 昭 27 | 波多野完治編『聴視覚教育新書 第5 (レコード)』金子書房 | レコードもそれをきいて遊べるようなリズムのはっきりしたものがよい。 モーツァルトの「きらきら星」 [通称] の如きは「ABCDEFGH」という歌としてレコードに吹き込まれているし、変奏曲もあるので、子供が十分に鑑賞するのに適している。 |
| 1952 昭 27 | 雑誌『保育遊戯 (62)』白眉社 | 五線譜：へ長調、2拍子、則武昭彦作曲 表題：キラキラ星よ (則武昭彦作詞) 歌詞：キラキラほしよ／ちいさなほしよ |
| 1952 昭 27 | 玉川大学出版部編『玉川こども百科 7 (世界のうた)』 | 五線譜：へ長調、4拍子、にちようさんびか 目次：キラキラ星 (ほし) 楽譜表題：Twinkle... (キラキラほしよ) [由木康訳詞] 訳歌詞：キラキラほしよ ふしぎなほしよ 原歌詞：Twinkle... 振仮名：トゥィンクル... |
| 1952 昭 27 | 井上武士、長岡光男共著『中学音楽図画工作の総まとめ (中学の総まとめ叢書;第6)』向上社 | 五線譜：へ長調、2拍子 (歌詞は無し) 表題：きらきらぼし [通称] / Twinkle... |

| 出版 | 出典 | 記述 |
|--------------|---|--|
| 1953 昭 28 | 『音楽藝術 4 月号』音楽之友社に掲載された龍吟社の広告 | 『モーツァルト集』120 円。ソナチネ (ハ長調)、キラキラ星変奏曲 [通称]、幻想曲 (ニ短調)、トルコ行進曲の 4 曲を収む |
| 1954 昭 29 | 渡辺茂『音楽のおけいこ (少年音楽文庫;2 期 3)』音楽之友社 | 三部形式というのは、ABA なのです。「きらきら星」[通称] の歌です。 |
| 1955 昭 30 | 菊池重三郎『鸚鵡の宿』新潮社 | …生後一年二ヵ月ぐらいでアンヨもまだ出来ない幼児が、四歳、六歳、十歳になる同胞 (きょうだい) の歌う、キラキラほしよ／いったいあなたは何でしょう／あんなに高い空のうね／ダイヤモンドを見るように [逐語訳?] なぞと、この単純な旋律に合せて両腕を空に伸したり、金平糖のような掌 (てのひら) を開いてクルクル廻したり、首を傾げて考える仕種をして見せるのを見ていると、どうにも不思議で人間わざとは思えない…。 |
| 1955 昭 30 | 東大学力増進会編『高校入試全科予想問題と学力テスト』関東出版社 (2/4 拍子) | 五線譜：ヘ長調、2 拍子 (歌詞は無し) 解説：曲は「きらきら星 [通称] (Twinkle...)」又は「Alphabet」です。 |
| 1955 昭 30 | 広島大学附属小学校学校教育研究会編『学校教育 (455)』広島大学附属小学校学校教育研究会 | 四年生の九月教材について 題材「きらきら星」[通称] (二部合唱または二部輪唱) 旋律は有名なフランス民謡。日本では「きらきら星」[通称]「アルファベットの歌」等の訳詞が最もポピュラーであるが、何れも詩には同題でもいろいろの訳があり、定詩というものはない。 |
| 1955 昭 30 | 野ばら社編『原語で歌える世界の名歌』野ばら社 | 五線譜：ヘ長調、2 拍子 表題：Twinkle, Little Star (きらきら小星) [逐語訳の表題] 歌詞：Twinkle... |
| 1955 昭 30 | 木村重雄『モーツァルト：オペラその他 続』(アテネ文庫) 弘文堂 | 子供がよく弾く<きらきら星変奏曲> [通称] ——フランス民謡 <Ah, vous dirai je, Maman> による十二の変奏曲 (K.265) |
| 1956 昭 31 | 文部省編『青少年の合唱：曲集』日本放送教育協会 | 五線譜：ヘ長調、2 拍子 表題：きらきら小星 (長谷川新一訳詞、モーツァルト作曲) 歌詞：きらきらほしよ／おまえはなんだろう |
| 1957 昭 32 | 雑誌『文芸首都 26 (9)』文芸首都社 | 信は、しばらく頭だけをあげて星を見あげていた。“きらきら星よきれいな星よ…” [訳詞者不明] そんな歌の文句が、きれぎれに信の頭にうかんだ。それは子どもの頃、美しいカードがもらえるのがたのしみで行っていた日曜学校の若い女教師が歌ってくれた歌であった。 |
| 1958 昭 33 | 雑誌『保育の友 6 (1)』全国社会福祉協会 | 「十年後には空を屋外遊技場として、人工衛星に乗った先生と子どもたちが“キラキラ星よ、不思議な星よ” [由木康訳詞] の代りに“私は星よ、人工衛星よ”という歌を電子音楽に合せて歌いながら、踊ることでしょう」など書いてお茶をにごしたくなるのであるが…。 |
| 1958 昭 33 | 三省堂編修所編『学習百科事典』三省堂 | 五線譜：ヘ長調、2 拍子 表題：きらきら星よ 歌詞：おほしさまびかり／びかびかびかり [篠崎もとみ訳詞] |
| 1958 昭 33 | 雑誌『中学英語時代 (19)』日本英語教育協会 | 堀内敬三談「小学校 3 年生ごろ [1903 年頃か] 英語の唱歌をいくつも習いました。“Twinkle, twinkle, little star” (きらきら、星よ [由木康訳詞の歌い出し]) がいちばん初めであったと思いますが、ABC も知らぬうちからこういう歌を口まねで歌ったのが英語を知った初めなのです」 |
| 1961 昭 36 | 属啓成編『やさしいピアノ曲集バイエルの友』カワイ楽譜 | 五線譜：ハ長調、2 拍子、原曲フランス民謡 表題：きらきら星 [通称] |
| 1961 昭 36 | 豊増昇編集・校訂『ピアノ小品名曲集』春秋社 | モーツァルト 12 の変奏曲 (「きらきら星」の主題による) [通称] |
| 1962 昭 37 | 真篠将等編『少年少女歌唱曲全集 11 (合唱集 1)』ポプラ社 | 五線譜：ヘ長調、4 拍子 表題：きらきら星 (由木康訳詞) 歌詞：きらきらほしよ ふしぎなほしよ |
| 1967 昭 42 | 上沢憲二著『新幼児ばなし三百六十五日 7-12 月 3 訂版』恒星社厚生閣 | そうして、上を見ながら手をたたきながら、うたいました。「きらきら星よ／不思議な星よ…」 [由木康訳詞] |
| 1968 昭 43 | 三郷町図書館、武鹿文庫 (ぶしか、ぶんこ) 注 46 | 「きらきらぼし」[通称] が小学音楽教科書に掲載される際に、小学 1 年教材として「きらきらぼし」[通称] の曲に一音符に一字で日本語詩を新たに作詩されました。 武鹿悦子氏 年譜 1968 年 (昭和 43 年)「きらきらぼし」フランス民謡 (教育出版) コロムビア LP レコード |
| 1977 昭 52 | 河端茂『レコード産業界 (教育社新書・産業界シリーズ;59)』教育社 | このプレス方式が最初に成功した録音で、ベルリーナはドイツなまりの英語で「きらきら星よ、あなたはいったいなんでしょう」 [逐語訳] と吹き込んだ |
| 1979 昭 54 | 山根章弘著『羊毛文化物語』講談社 | 序説の中でも紹介したが、本としては十八世紀初頭に始めて刊行された英国伝承童謡集『マザー・グース』の中にある有名な童謡「バア、バア、ブラックシープ」の全節である。[中略]「キラキラ星よ」 [由木康訳詞] のメロディーとほとんど同じ旋律でうたわれる。 |

| 出版 | 出典 | 記述 |
|--------------|---------------------------------|--|
| 1984 昭 59 | ゴードン他著『2、3 歳児と遊ぶ：遊びによる学習活動』黎明書房 | 『おかずが煮えた』これも「キラキラ星よ、ふしぎな星よ」[由木康訳詞]の曲の前半だけをつかって。「キラキラ星よ」のところに「ぐつぐつ煮えた おかずが煮えた」を入れてうたうと、だいたい合います。 |
| 1996 平 8 | 小泉保著『音声学入門』大学書林 ^{注 47} | “Twin-kle twin-kle lit-tle star”「キラキラ星よ」[由木康訳詞]と歌う子供たちは、この歌詞における 7 つの音節の数をしっかりと弁えているが、音声学はいまだに音節について明確な定義を下すことができないでいる。(p.124) |
| 2007 平 19 | 高橋秀武『妖怪人間ベム 1』集英社 | 漫画吹き出し：「またたく星よ きらきら星よ あなたのうちは おとぎのうちよ♪」「あなたは 呼ぶよ にこにこ顔で」[數田義雄訳詩。野ばら社] |

犬輔：日本にこの童謡が入ってきた最初は ABC の歌で、英語の読本からだったんですね。メロディは書かれていないものの、ジョン万次郎が自著『英米対話捷徑』[英会話の近道] (1859) で「アメリカでは子供に節をつけて教えている」と歌詞を紹介しています。一方 Twinkle... の歌詞は村井元道訳『ウィルソン氏第二リドル直訳』(1882) で対訳されました。

教授：『ウィルソン・リーダー』というのは慶応三年 [1867] に福澤諭吉が二度目の渡米をしたときもちかえて日本国内にひろめた読本で、明治になると全国を風靡し、坪内逍遙、三宅雪嶺、加藤高明、八代六郎なども名古屋英語学校でこれをならったと言われている^{注 48}。著名人が Twinkle... の歌詞に親しんでいたのだ。

鳥代：英語の朗読から始まって、口伝のメロディによる英語歌詞での歌唱があったものと思われます。楽譜付きで「みよみよ小児 (こども)」「うづまく水 (みづ)」「かたつぶり」の歌詞 (すべて訳詩ではない) が出版されましたが、英語でも歌われ続けていました。

犬輔：1914 (大 3) の近藤朔風による「煌々 (きらきら) 光れ / 小さき星よ」が初めて歌詞を翻訳した正真正銘の訳詞なんですね。「きらきら星」ではありませんが、「きらきら」という副詞が使われています。

鳥代：一方、北原白秋の童謡集 (1922)^{注 49}の表題がまさに『きらきら星』です (「星」には「ぼし」とルビが付いています)。でも、その表題の下に掲載されている「星の歌」の歌詞は「ちらちらお星さん拝ませう / 宵には明星、金の星、／羊も、ちりしやら、かへります。」であって Twinkle... とは全く関係ありません。この表題はどうして生まれたのでしょうか。

教授：詩の第 6 節に「南の空には昂星 (すばるぼし)、／ツキンクルツキンクル美しい。／まだ目が覚めてか、話してか。」とある。白秋は翻訳詩集『まざあ・ぐうす』を刊行しているが、そこでは「べああ、べああ、ブラック・シイプ」と「ABC」を訳出しており^{注 50}、Twinkle... は訳していない。しかしこの創作詩にツキンクルツキンクルの語を入れて、その表題を『きらきら星 (ぼし)』としたのは Twinkle... の歌を意識してのことであろう。

鳥代：でも何故「きらきら星 (ぼし)」という言い回しにしたのかの説明はまだ伺えていません。

教授：「綺羅、星のごとく」という言葉がある (「綺羅」とは美しい衣服のことだ)。ここから「綺羅星 (きらほし、きらぼし)」という誤用の単語 (「美しい衣服の星」はありえないゆえ) が生まれた。同じ音でも「煌星 (きらほし、きらぼし)」と書けば「きらきら輝く星」になるが、ひらがなで「きら星」と書くと誤用と紛らわしくて嫌う人もいる。そこで白秋はツキンクルツキンクルの繰り返しに準えて「きらきら星」としたものと考えられる。

犬輔：1932 に由木康が表題および歌い出しを「きらきら星よ」(正しくは「キラキラ星よ」としています。白秋の表題を流用したんですね。

教授：そうではないようだ。由木の表題は「キラキラ、星 (ほし) よ」と読む。「きらきら」は副詞で、「キラキラと星よ」と呼びかけているのだ (第 1 節は呼びかけで、第 2 節と第 3 節に主語と動詞がある)。表 10 に表現の違いを比較しておこう。

表 10 副詞+名詞による単語生成

| 対象 | 呼びかけ (副詞、名詞) | 一般的名詞化 | あだ名的名詞化 |
|------|--------------|----------|------------|
| 訳詞関連 | きらきら、星 (よ) | きら星 (ぼし) | きらきら星 (ぼし) |
| 参考例 | そよそよ、風 (よ) | そよ風 | そよそよ風 |
| 参考例 | どたどた、靴 (よ) | どた靴 (ぐつ) | どたどた靴 (ぐつ) |

犬輔：3 つの言い方があるということなんですね。由木は Twinkle, twinkle little star が呼びかけだから呼びかけを選び、白秋はあだ名的言い方を選んだ。ということなら、由木は近藤朔風の副詞である「きらきら」の影響を受けたんですね。

鳥代：あだ名的とは幼児的でもあるので、童謡タイトルとしては白秋の「きらきら星」を流用する方がしっくりくるわね。ただ、白秋の多くの詩に見られる独特の言い回しの一環と考えると白秋の専売特許感が無きにしも非ずだけれど。

教授：「きらきら星」は由木の訳詩からも導かれ得るから、必ずしも白秋だけが通称のオリジナルとは限らないことを念頭におくように。

後日の談話室 ―― まとめ

鳥代：白秋は『マザー・グース』に含まれたツキンクルツキンクルという歌詞を気に入り、それをヒントとして創作詩集の表題を「きらきら星 (ぼし)」としたものと思われます (1922)。一方、由木康は原詩の呼びかけの意図をくみ取って「キラキラ星 (ぼし) よ」という表題にしました (1932 以前)。これらを背景にスズキ・メソードの才能教育で有名な鈴木鎮一が Twinkle... のメロディに基づいて作曲したヴァイオリン練習曲を「キラキラ星 (ぼし) 変奏曲」(カタカナ表記) と称し、その演奏記録 (1948) が残っています。それ以後、音楽書ではフランス民謡を「きらきら星」と言い (1950)、K.265 の主題部分だけを指して「モーツァルトのきらきら星」(1952) と呼び^{注 51}、モーツァルトのピアノ曲集 (1953) に「キラキラ星変奏曲」と記載されていることから、この頃までに通称が普及していたと考えられます。モーツァルトの専門書で「きらきら星変奏曲」が通称として追認されたのは木村重雄『モーツァルト：オペラその他 続』弘文堂 (1955) が最初だと思われます。

教授：因みに英語圏でも Variations on ‘Twinkle, twinkle, little star’ と言うが、やはりヴァイオリン曲 (スズキ・メソード) かピアノ曲 (K.265) かの確認を要する。

犬輔：現代の多くの教科書には武鹿悦子訳詞の「きらきらひかる／おそらのほしよ」が採用されていますが、表題は通称の「きらきらぼし」です。それ以前は由木康訳詞の「キラキラ星よ」が讃美歌 [讃美歌集 1954 版、1997 版には不採用]・童謡として長らく歌われていました。

教授：由木康 (ゆうきこう 1896-1985) のプロフィールを紹介しておこう。「境港市に生まれる。少年時代から伝道者の父に従い、鹿児島、奈良、対馬、神戸などを転居、大正 5 年に関西学院を卒業するが、父の遺志を継いで牧師となるため、神戸聖書学校に入学する。大正 10 年に上京し、東中野教会の牧師に就任する。その後、日本キリスト教団出版部参事、東京女子大学、青山学院大学、フェリス短期大学等の講師を務め、戦後の讃美歌の改訂には委員長として参画する。童謡集「おさな子の歌」や讃美歌「きよしこの夜」など多くの作品を作詞・訳詞している。また、パスカル研究者でもあり、パスカルの『パンセ』を本邦で初めて全訳公刊したほか、関係書を多数出版している」^{注 52}。

鳥代：「きよしこの夜」は讃美歌として歌われる場合は教派ごとに訳詞が異なり、童謡となっても出版社ごとに歌詞が変えられています。これと同じ理由で讃美歌から始まり、童謡として普及した「きらきら星」も訳詞が乱立したのではないかと思います。

犬輔：参考までに Twinkle... の和訳歌詞の訳詩者別のデータを分かる限り表 11 に示しましょう。

表 11 Twinkle, twinkle little star の和訳歌詞

| 訳詞者 | 発表年 | 表題 | 歌い出し |
|----------------------------|-----------|------------|--------------------------|
| 近藤朔風 (こんどうさくふう 1880-1915) | 1914 共益商社 | Twinkle... | 煌々 [きらきら] 光れ／小さき星よ |
| 由木康 (ゆうきこう 1896-1985) | 1932 以前 | キラキラ星よ | キラキラほしよ／ふしぎなほしよ |
| 高田三九三 (たかださくぞう 1906-2001) | 1948 以前 | 光れよお星 | 光れよ光れ／お空のお星 |
| 小出浩平 (こいでこうへい 1897-1986) | 1951 以前 | お星さま | きらきらおほし／あなたはきれい |
| 川口 蕨香 (かわぐちこうこう) | 1952 教育出版 | おほしさま | |
| 長谷川新一 (はせがわしんいち 1915-2010) | 1956 以前 | きらきら小星 | きらきらほしよ／おまえはなんだろう |
| 篠崎もとみ | 1958 以前 | おほしさま | おほしさまばかり／ぴかぴかぴか |
| 村野四郎 (むらのしろう 1901-1975) | | | あちらのそらで／きらきらひかる |
| 岡本敏明 (おかもととしあき 1907-1977) | | | キラキラそらに／おほしさまひかる |
| 薮田義雄 (やぶたよしお 1902-1984) | 野ばら社 | きらきら星 | またたく星よ／きらきら星よ |
| 村山寿子 | 1962 以前 | お星さま | おほしさまばかり／ぴかぴかぴか |
| 大浦正美 | 1962 教育出版 | きらきらぼし | |
| 武鹿悦子 (ぶしかえつこ 1928-) | 1968 教育出版 | きらきらぼし | きらきらひかる／おそらのほしよ |
| 堀野真一 | 1980 以前 | きらきらぼし | キラキラひかる／おおきなほしは |
| 三宅忠明 (みやけたただあき 1939-) | | きらきら星 | きらきら小さなお星様／とってもとってもふしぎです |
| 不詳 | 1997 学研 | | きらきらほしよ／きれいなほしよ |
| 不詳 | Pinkfong | おほしさま | きらきらほしが／おそらをてらす |

犬輔：Twinkle, twinkle little star は『マザー・グース』の歌の一つに数えられ、『不思議の国のアリス』には替え歌が出てきます。そして何よりも、エジソンが「メリーさんの羊」を吹き込んだ蝋管 (1877)^{注 53} は実用化できず、ドイツ出身のアメリカの発明家ベルリナーが「Twinkle...」を吹き込んだ円盤ディスク (1887)^{注 54} のほうが実用化され、現代の RCA、EMI、ドイツ・グラモフォンに繋がっているということには感慨深いものがあります。

注 45：特記以外は国立国会図書館デジタルコレクション ∞

注 46：三郷町図書館、武鹿文庫 (ぶしか ぶんこ) ∞

注 47：川戸道昭：明治のマザーグース ―英語リーダーを仲立ちとするその受容の全容― ∞

注 48：前掲川戸道昭

注 49：きらきらぼし 白秋童謡 6、国文学研究資料館 ∞

注 50：まざあ・ぐうす 北原白秋訳 青空文庫 ∞

注 51：きらきら星がモーツァルトの作曲であるという表記が 1936、1956 に見られるがあながち間違いとは言えない。

注 52：由木康 ゆうきこう プロフィール、鳥取県 地域社会振興部 文化政策課 ∞

注 53：残されているのは 10 周年記念に再吹き込みされたもの。Thomas Edison and the phonograph ∞

注 54：Twinkle, Twinkle, Little Star・Emile Berliner ∞

(作成：2024 年 5 月 31 日)